

## 商工会議所 L O B O ( 早期景気観測 )

— 平成 1 4 年 8 月 調査結果 —

(平成 1 4 年 9 月 3 日)

○調査期間：平成 1 4 年 8 月 2 1 日～2 7 日

○調査対象：全国の 4 0 1 商工会議所が 2 6 0 5 業種組合等にヒアリング  
(内訳) 建設業 3 8 6 製造業 6 3 8 卸売業 2 3 1  
小売業 7 4 7 サービス業 6 0 3

○調査項目：今月の売上・採算・業況等についての状況 ( D I 値を集計 )  
及び、業界として当面する問題等

※ D I 値について

D I 値は、売上・採算・業況などの各項目についての、判断の状況を表す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。したがって、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりを意味する。

D I = ( 増加・好転などの回答割合 ) - ( 減少・悪化などの回答割合 )  
業況・採算：( 好転 ) - ( 悪化 )      売上：( 増加 ) - ( 減少 )

日本商工会議所

本件担当：産業政策部 TEL: 0 3 - 3 2 8 3 - 7 8 4 4  
E-Mail: sangyo@jcci.or.jp

なお、本調査結果は日商ホームページ (<http://www.jcci.or.jp>)でもご覧になれます。

## 【平成14年8月調査結果のポイント】

### 業況2カ月振りにわずかに改善するも、依然水準低く、楽観できない状況

- 8月の景況をみると、全産業合計の業況DI（前年同月比ベース、以下同じ）は、前月水準（▲48.9）よりマイナス幅が2.5ポイント縮小して▲46.4となった。DI値の水準は、4月以降一進一退を繰り返しており、前月、わずかながらも拡大したマイナス幅は、再び小幅縮小となった。

業種別の業況DIを見ると、全業種でマイナス幅が縮小したものの、DI値の水準は依然として低く、また、消費の低迷や先行きの不透明感を訴える声が未だ多数寄せられており、景気の先行きは楽観できない。

【建設業】では、「売上高は前年水準並みで推移しているが、利益率は低下傾向で停滞感が強い」（電気工事）、「公共・民間工事ともに発注少なく、受注を巡って価格競争が激化」（一般工事、建築工事）、と引き続き公共事業の削減、民間設備投資の低迷による受注減を訴える声が多く寄せられている。一部に「前年同月比の受注高が20%増」（一般工事）との声もあるものの、「競争が激化しており、採算の悪化が懸念される」（木造建築工事）との声や、「今後は秋枯れが懸念される」（建築工事）など、先行きに対する懸念が広がっている。

【製造業】では、「輸送機械、工作機械は前年同期から比べると良くなっている」（自動車・附属品）、「生産、販売とも少し回復してきた」（楽器製造）、といったコメントが見られるものの、「受注単価の低下、原材料単価の上昇により、採算が圧迫されている」（鉄素形材製造）、との声や、「少しずつ良くなっているが楽観はできない」（金属素型材製品）、「業況の変化が激しく今後の対応に苦慮」（自動車・附属品）と、先行きに対する不安感を訴える声が多く寄せられている。

【卸売業】では、「厳しい状況の中で、上向きの傾向が見えてきた」（衣服・日用品卸）と、明るい見方が出ているものの、「厳しい業況の中、二極化が進んでいる」（家具・建具等卸）、「商品単価も下がり、売上高は対前年比激減」（繊維品卸）、「住宅建築低迷で関連資材卸で1～2割減。衣料品・食料品卸でも依然先行き不透明」（各種商品卸）と、引き続き厳しい業況と先行き不透明感を訴える声が多い。また、「猛暑でドリンク部門は良かったが、食品部門は牛肉関係で減少」（農畜産水産物卸）、「夏場の最盛期にあるが、天候不順もあって依然需要は低迷」（食料・飲料卸）など、天候や大手食品メーカーによる牛肉偽装問題の影響を指摘する声も聞かれる。

【小売業】では、猛暑により、「夏物衣料やビール、エアコン、水着等が好調」（百貨店、その他各種商品小売）と、売上へ好影響との声が多いものの、「暑さが厳しく日中の来店者が少ない」（商店街）との声もあり、北日本からは「長雨、冷夏で売上減少」（百貨店、商店街）と、天候不順の悪影響を訴える声も寄せられている。また、「季節商材の動きは好調だったが、全体的には単価下落、採算悪化」（百貨店）、「依然、衣料品を中心に価格競争により収益面が悪化」（百貨店）、「全業種売上低迷、客数、客単価ともに減少傾向」（商店街）、「イベントを行っても人出はあるが売上につながらない」（商店街）等、消費動向をめぐる厳しい状況と、先行き不透明感を訴える声が依然多い。また、「食に対する不信感が広がっている」（百貨店）と、牛肉偽装問題の悪影響を指摘する声も寄せられている。

【サービス業】では、「景気浮揚について中央からの波及効果が出てきた」（旅館）、との声があるものの、「夏休みの客数増加期待したものの、思うように売上伸びず」（食堂・レストラン）、「依然として低迷している」（旅館）等、引き続き消費の低迷を指摘する声が多い。また、猛暑により「冷たい麺類が好調」（そば・うどん店）、「パーマ客よりカット客が増え、売上伸びず」（美容）と好悪両面の影響を指摘する声が寄せられた。牛肉偽装問題の影響により、「外食産業にも影響が出ている」（喫茶店）との声も聞かれた。また、「秋以降の予約の動きが鈍い」（旅館）や「好転する材料なし」（建物サービス）等、先行き不透明感を訴える声が、依然、多く寄せられている。

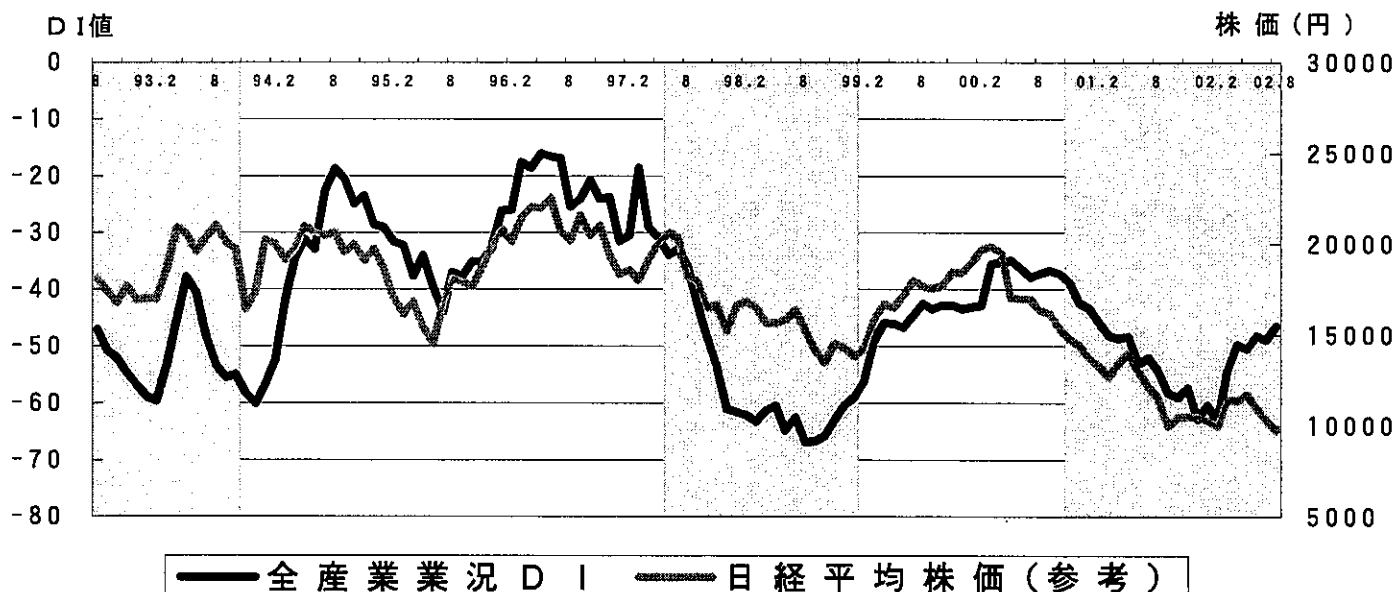
売上面では、前月水準と比較して、全産業でマイナス幅が縮小したことから、全産業合計の売上DIは前月水準よりマイナス幅が4.9ポイント縮小して▲39.1となり、2カ月振りにマイナス幅が縮小した。

採算面でも、建設でマイナス幅が拡大したものの、残りの4業種では、マイナス幅が縮小し、全産業合計の採算DIは2.2ポイント縮小して▲43.0と、業況および売上DIとともに、2カ月振りにマイナス幅が縮小した。

○ 向こう3カ月(9月～11月)の先行き見通しについては、全産業合計の業況DI(今月比ベース)が▲36.6と、昨年同時期の先行き見通し(▲47.1)と比べて上向いている。

○ 景気に関する声、当面する問題としては、公共事業の削減や消費不振による先行き不安感、仕入れコストの上昇、猛暑・天候不順の影響に関するコメントが目立っている。また、食品表示問題を指摘する声もあがっている。

《参考》過去10年間の全産業・業況DI値の推移



【業況についての判断】

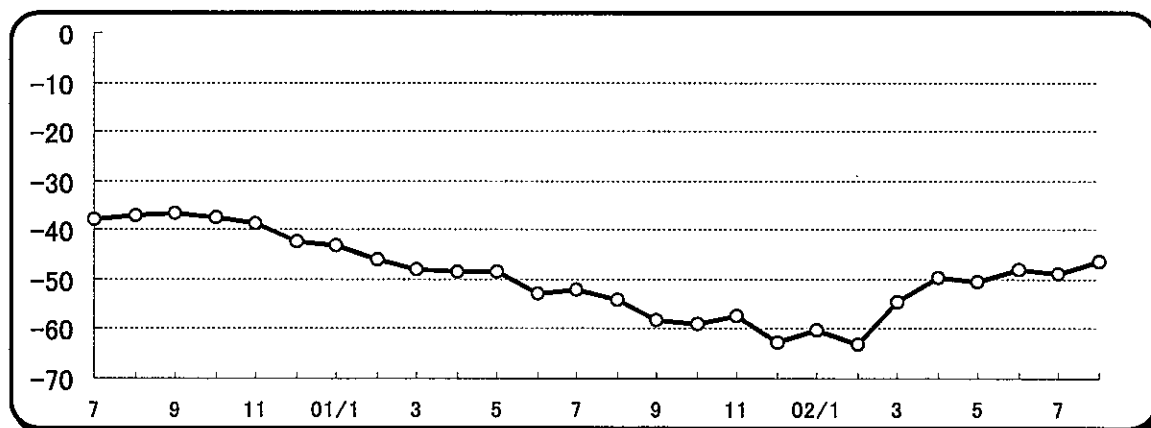
- 8月の景況をみると、全産業合計の業況DI（前年同月比ベース、以下同じ）は、前月水準（▲48.9）よりマイナス幅が2.5ポイント縮小して▲46.4となった。DI値の水準は、4月以降一進一退を繰り返しており、前月、わずかながらも拡大したマイナス幅は、再び小幅縮小となった。
- 向こう3カ月（9月～11月）の先行き見通しについては、全産業合計の業況DI（今月比ベース）が▲36.6と、昨年同時期の先行き見通し（▲47.1）と比べて上向いている。

業況DI（前年同月比）の推移

|      | 14年<br>3月 | 4月    | 5月    | 6月    | 7月    | 8月    | 先行き見通し<br>9～11月  |
|------|-----------|-------|-------|-------|-------|-------|------------------|
| 全産業  | ▲54.4     | ▲49.7 | ▲50.4 | ▲48.1 | ▲48.9 | ▲46.4 | ▲36.6<br>(▲47.1) |
| 建設   | ▲64.7     | ▲67.7 | ▲66.7 | ▲61.6 | ▲57.1 | ▲55.7 | ▲50.5<br>(▲57.7) |
| 製造   | ▲59.0     | ▲53.6 | ▲53.8 | ▲48.5 | ▲47.6 | ▲44.8 | ▲33.8<br>(▲48.3) |
| 卸売   | ▲62.8     | ▲58.4 | ▲58.1 | ▲52.1 | ▲48.7 | ▲46.6 | ▲32.3<br>(▲45.8) |
| 小売   | ▲49.4     | ▲41.9 | ▲42.7 | ▲41.1 | ▲49.1 | ▲45.0 | ▲32.4<br>(▲43.1) |
| サービス | ▲44.6     | ▲39.2 | ▲41.8 | ▲45.8 | ▲44.5 | ▲43.4 | ▲37.0<br>(▲43.9) |

※「先行き見通し」は当月に比した向こう3カ月の先行き見通しDI  
（ ）内は昨年8月の先行き見通しDI<以下同じ>

《業況DI(全産業・前年同月比)の推移》



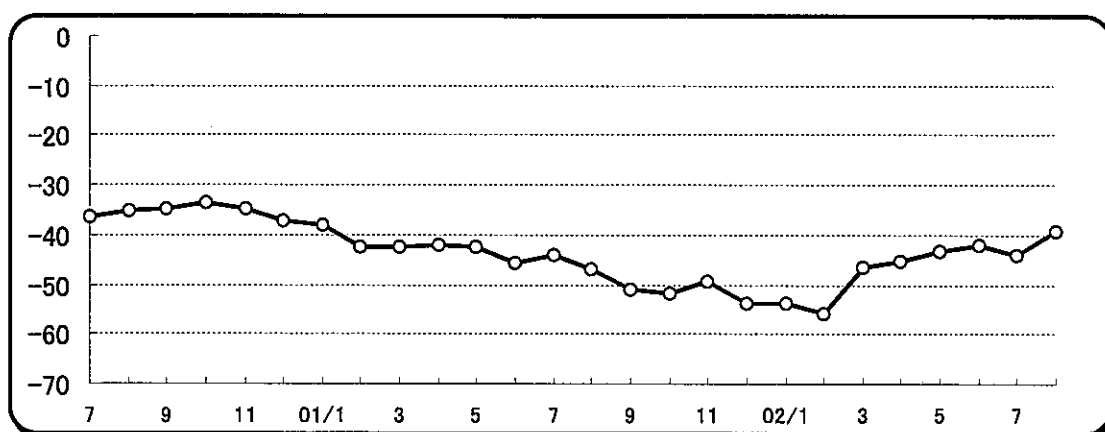
【売上（受注・出荷）の状況についての判断】

- 売上面では、前月水準と比較して、全産業でマイナス幅が縮小したことから、全産業合計の売上DIは前月水準よりマイナス幅が4.9ポイント縮小して▲39.1となり、2カ月振りにマイナス幅が縮小した。
- 向こう3カ月(9月～11月)の先行き見通しについては、全産業合計の売上DI(今月比ベース)が▲30.4と、昨年同時期の先行き見通し(▲39.5)に比べて明るい見方となっている。

売上（受注・出荷）DI（前年同月比）の推移

|      | 14年<br>3月 | 4月    | 5月    | 6月    | 7月    | 8月    | 先行き見通し<br>9～11月  |
|------|-----------|-------|-------|-------|-------|-------|------------------|
| 全産業  | ▲46.5     | ▲45.2 | ▲43.2 | ▲42.0 | ▲44.0 | ▲39.1 | ▲30.4<br>(▲39.5) |
| 建設   | ▲56.0     | ▲60.6 | ▲60.7 | ▲56.5 | ▲48.7 | ▲45.7 | ▲41.5<br>(▲44.3) |
| 製造   | ▲52.3     | ▲48.6 | ▲47.7 | ▲40.0 | ▲41.6 | ▲37.6 | ▲27.8<br>(▲39.6) |
| 卸売   | ▲58.3     | ▲56.5 | ▲45.6 | ▲45.6 | ▲45.5 | ▲39.8 | ▲21.7<br>(▲40.0) |
| 小売   | ▲39.4     | ▲40.4 | ▲37.1 | ▲38.7 | ▲45.3 | ▲39.4 | ▲28.5<br>(▲40.2) |
| サービス | ▲37.0     | ▲32.4 | ▲32.5 | ▲37.0 | ▲41.3 | ▲35.7 | ▲31.4<br>(▲34.8) |

《売上（受注・出荷）DI（全産業・前年同月比）の推移》



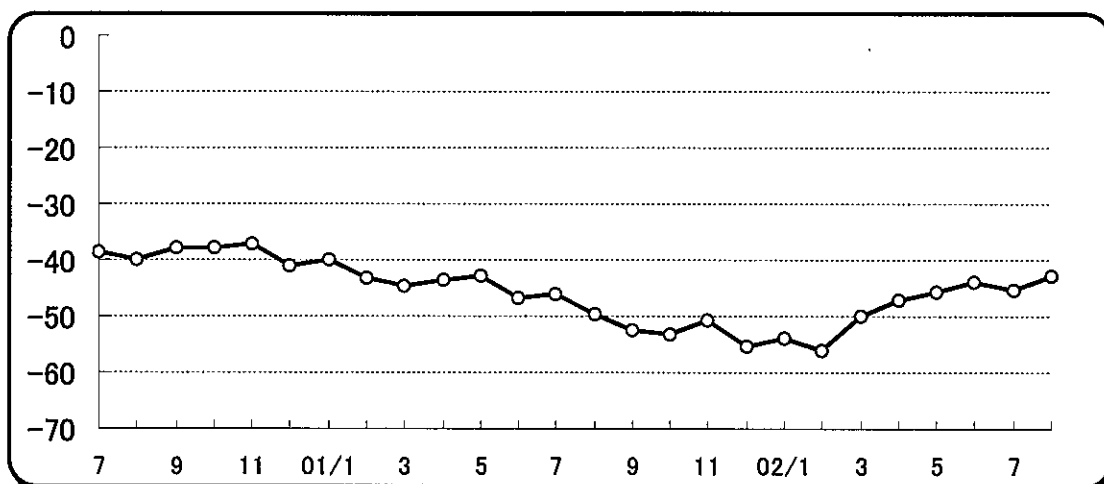
【採算の状況についての判断】

- 採算面でも、建設でマイナス幅が拡大したものの、残りの4業種では、マイナス幅が縮小し、全産業合計の採算D Iは2.2ポイント縮小して▲43.0と、業況、売上D I同様、2月振りにマイナス幅が縮小した。
- 向こう3ヵ月(9月～11月)の先行き見通しについては、全産業合計の採算D I(今月比ベース)が▲32.9で、昨年同時期の先行き見通し(▲41.1)と比べて、明るい見方となっている。

採算D I (前年同月比) の推移

|      | 14年<br>3月 | 4月    | 5月    | 6月    | 7月    | 8月    | 先行き見通し<br>9～11月  |
|------|-----------|-------|-------|-------|-------|-------|------------------|
| 全産業  | ▲49.9     | ▲47.0 | ▲45.7 | ▲43.9 | ▲45.2 | ▲43.0 | ▲32.9<br>(▲41.1) |
| 建設   | ▲64.7     | ▲61.6 | ▲62.1 | ▲60.5 | ▲56.6 | ▲59.6 | ▲48.6<br>(▲54.7) |
| 製造   | ▲54.2     | ▲55.8 | ▲51.6 | ▲44.8 | ▲46.1 | ▲44.9 | ▲32.3<br>(▲40.3) |
| 卸売   | ▲53.2     | ▲54.0 | ▲47.5 | ▲42.0 | ▲43.1 | ▲40.4 | ▲28.0<br>(▲38.7) |
| 小売   | ▲44.1     | ▲36.0 | ▲36.3 | ▲37.0 | ▲42.0 | ▲36.3 | ▲27.7<br>(▲39.2) |
| サービス | ▲40.2     | ▲38.4 | ▲38.9 | ▲41.2 | ▲41.3 | ▲38.7 | ▲31.1<br>(▲36.0) |

《採算D I (全産業・前年同月比) の推移》



(参考)

資金繰りDI (前年同月比) の推移

|      | 14年<br>3月 | 4月     | 5月     | 6月     | 7月     | 8月     | 先行き見通し<br>9~11月    |
|------|-----------|--------|--------|--------|--------|--------|--------------------|
| 全産業  | ▲ 41.1    | ▲ 37.9 | ▲ 36.3 | ▲ 34.5 | ▲ 33.8 | ▲ 32.8 | ▲ 29.5<br>(▲ 30.3) |
| 建設   | ▲ 49.3    | ▲ 50.9 | ▲ 46.7 | ▲ 44.8 | ▲ 44.9 | ▲ 44.5 | ▲ 40.6<br>(▲ 41.7) |
| 製造   | ▲ 49.0    | ▲ 48.2 | ▲ 43.3 | ▲ 41.6 | ▲ 41.4 | ▲ 37.7 | ▲ 31.1<br>(▲ 32.4) |
| 卸売   | ▲ 37.0    | ▲ 37.1 | ▲ 33.3 | ▲ 30.7 | ▲ 29.6 | ▲ 24.8 | ▲ 21.2<br>(▲ 25.4) |
| 小売   | ▲ 32.4    | ▲ 25.1 | ▲ 25.3 | ▲ 24.4 | ▲ 24.9 | ▲ 25.3 | ▲ 24.7<br>(▲ 28.0) |
| サービス | ▲ 36.6    | ▲ 30.0 | ▲ 33.4 | ▲ 30.7 | ▲ 26.8 | ▲ 29.4 | ▲ 29.0<br>(▲ 24.5) |

$$DI = (\text{好転の回答割合}) - (\text{悪化の回答割合})$$

【前年同月比DI】小売、サービスでは悪化超感が若干強まったが、全産業では6カ月連続で悪化超感弱まる。

【先行き見通しDI】サービスで、昨年同時期に比べ悪化超感強まるが、他の4業種は、悪化超感が若干弱まる。全産業でも悪化超感わずかに弱まる。

仕入単価DI (前年同月比) の推移

|      | 14年<br>3月 | 4月    | 5月    | 6月    | 7月    | 8月    | 先行き見通し<br>9~11月  |
|------|-----------|-------|-------|-------|-------|-------|------------------|
| 全産業  | 3.2       | 0.9   | 1.0   | 0.7   | ▲ 0.1 | ▲ 0.4 | ▲ 2.5<br>(0.6)   |
| 建設   | 4.7       | ▲ 1.8 | 1.1   | 1.8   | 0.0   | 1.8   | 0.7<br>(▲ 0.7)   |
| 製造   | ▲ 2.2     | ▲ 5.5 | ▲ 5.9 | ▲ 4.9 | ▲ 7.3 | ▲ 5.9 | ▲ 8.8<br>(▲ 2.0) |
| 卸売   | 13.5      | 9.4   | 8.2   | 4.8   | 1.9   | 8.8   | ▲ 1.9<br>(1.3)   |
| 小売   | 8.0       | 8.3   | 8.4   | 8.3   | 8.4   | 3.1   | 2.1<br>(5.8)     |
| サービス | ▲ 2.1     | ▲ 3.0 | ▲ 3.5 | ▲ 5.2 | ▲ 3.0 | ▲ 3.8 | ▲ 4.0<br>(▲ 2.5) |

$$DI = (\text{下落の回答割合}) - (\text{上昇の回答割合})$$

【前年同月比DI】小売、サービスで下落超感が弱まり、全産業では2カ月連続の上昇超過となった。

【先行き見通しDI】建設を除く4業種で、昨年同時期に比べ下落超感弱まる見通し。

従業員D I（前年同月比）の推移

|      | 14年<br>3月 | 4月     | 5月     | 6月     | 7月     | 8月     | 先行き見通し<br>9～11月    |
|------|-----------|--------|--------|--------|--------|--------|--------------------|
| 全産業  | ▲ 18.6    | ▲ 17.6 | ▲ 17.2 | ▲ 15.6 | ▲ 15.0 | ▲ 14.9 | ▲ 14.4<br>(▲ 14.4) |
| 建設   | ▲ 35.8    | ▲ 35.3 | ▲ 36.8 | ▲ 36.7 | ▲ 32.0 | ▲ 33.8 | ▲ 29.3<br>(▲ 26.5) |
| 製造   | ▲ 26.8    | ▲ 26.4 | ▲ 23.2 | ▲ 21.8 | ▲ 22.8 | ▲ 21.8 | ▲ 19.2<br>(▲ 19.9) |
| 卸売   | ▲ 21.8    | ▲ 21.1 | ▲ 20.6 | ▲ 16.0 | ▲ 14.9 | ▲ 16.8 | ▲ 13.9<br>(▲ 18.1) |
| 小売   | ▲ 6.9     | ▲ 6.8  | ▲ 6.4  | ▲ 3.7  | ▲ 4.3  | ▲ 4.9  | ▲ 6.7<br>(▲ 8.4)   |
| サービス | ▲ 10.7    | ▲ 7.7  | ▲ 8.9  | ▲ 8.9  | ▲ 7.5  | ▲ 5.8  | ▲ 8.1<br>(▲ 5.8)   |

D I = (不足の回答割合) - (過剰の回答割合)

【前年同月比D I】製造、サービスで過剰超感が弱まる。全産業でも過剰超感わずかに弱まる。

【先行き見通しD I】製造、卸売、小売で、昨年同時期に比べ過剰超感が弱まる見通し。



【平成14年8月の景気キーワード】

○ 先行き不透明感

今月も、景気の先行き不透明感を指摘する声が多く寄せられている。建設業からは、「地方官公庁の建設予算の縮減で依然厳しく、受注不足でトンネルの中、競争激化の傾向にある」（岩国・一般工事）、といった声が、製造業からは、「海外生産品の場つなぎの仕事があるが、一時的なもので、継続的な製品の受注につながらず、先が分からない」（下館・金属素型材製品）、「鉄鋼関連で高炉製品が好調に推移しているが、一定期間に限定され、その先の需要はまったく見通しが立たない」（大垣・窯業・土石）などの声が寄せられている。また、卸売業・小売業・サービス業からは、「住宅建築低迷で関連資材卸が落ち込み、衣料品、食料品卸では、販売不振と価格低迷が続き収益も低下しており、依然先行き不透明」（帯広・各種商品卸）、「消費の動向は依然不透明で、益々動きが鈍い感がする」（大洲・百貨店）、「秋以降については動きが悪い」（小松・旅館）等の声が寄せられている。

○ 猛暑・天候不順

猛暑の影響により、小売業を中心に夏物商品の売上増が見られ、「真夏日が続き、夏物商品の売れ行きが好調、前年売上を久々にクリアできた」（富士・百貨店）、「猛暑でビール、飲料水、エアコン、水着、リゾート用品等の夏物が好調に推移した」（蒲郡、小牧・各種商品小売）、「記録的な猛暑の為、冷たい麺類が例年より好調であった」（むさし府中・そば、うどん店）、といった声が寄せられている。反面、「暑さが厳しく日中の来店者少ない。売上全般伸びず」（田辺・商店街）、「猛暑の為、パーマ客よりカット客が増え、売上が伸びない」（須賀川・美容）等、マイナス面を指摘する声も目立った。一方、北日本を中心に台風、長雨、冷夏といった天候不順により、「冷夏の影響によりアイスクリームの売上減」（能代・各種商品卸売）、「長雨、冷夏の影響で夏物商品が全般的に低調」（札幌、小樽・百貨店）といった影響が見られた。

○ 食品表示問題

7月30日に発覚した、大手食品会社による輸入牛肉偽装買い上げ問題による、食品表示への不信感、消費へのマイナス影響に関するコメントが目立った。「精肉が不振」（一宮・百貨店）、「食品の表示に対するお客様の不信増大」（松坂・百貨店）、という声だけでなく、「食品会社の不祥事で外食産業にも影響が出ている。安全な食物を提供するのが一番のサービス」（鹿児島・喫茶店）、「消費者の食品表示に対する不信感は、牛肉だけでなく、水産物にまでイメージダウンを与えている」（焼津・農畜産水産物卸）、といった声が相次いでいる。また、「表示の適正化を求められ、コスト上昇のうえに売価の値下げを求められ非常に厳しい。零細下請けに廃業も出ている」（銚子・水産食料品製造）といった深刻な影響を訴える声も寄せられている。

【景気キーワードの推移】

| 年 月    | 景気キーワード |          |         |
|--------|---------|----------|---------|
| 14年 6月 | 先行き不透明感 | 企業間格差    | ワールドカップ |
| 7月     | 先行き不透明感 | 仕入れコスト上昇 | 天候不順    |
| 8月     | 先行き不透明感 | 猛暑・天候不順  | 食品表示問題  |

※景気キーワードは、調査対象組合の各月におけるトピック・関心事項などに関しての自由回答をまとめたもの。

【産業別概況】

| 産 業  | 概 況   |
|------|---|
| 建 設  | <p>業況D1は4カ月、売上D1は3カ月連続で改善したが、採算D1は3カ月振りにマイナス幅が拡大。「売上高は前年水準並みで推移しているが、利益率は低下傾向で停滞感が強い」(電気工事)、「公共・民間工事ともに発注少なく、受注を巡って価格競争が激化」(一般工事、建築工事)、と引き続き公共事業の削減、民間設備投資の低迷による受注減を訴える声が多く寄せられている。「前年同月比の受注高が20%増」(一般工事)との声もあるものの、「競争が激化しており、採算の悪化が懸念される」(木造建築工事)との声や、「今後は秋枯れが懸念される」(建築工事)など、先行きに対する懸念が広がっている。</p>   |
| 製 造  | <p>業況D1は3カ月連続でマイナス幅が縮小。売上・採算D1も、ともに2カ月振りにマイナス幅が縮小した。「輸送機械、工作機械は前年同期から比べると良くなっている」(自動車・附属品)、「生産、販売とも少し回復してきた」(楽器製造)、といったコメントが見られるものの、「受注単価の低下、原材料単価の上昇により、採算が圧迫されている」(鉄素形材製造)、との声や、「東アジア(特に中国)向けの受注は引き続き見込まれるが、価格競争が厳しく採算の悪化を懸念」(繊維機械製造)、「業況の変化が激しく今後の対応に苦慮」(自動車・附属品)と、先行きに対する不安感を訴える声が多く寄せられている。</p>  |
| 卸 売  | <p>業況D1は3月以降6カ月連続でマイナス幅が縮小。売上D1は2カ月連続で縮小。採算D1も2カ月振りにマイナス幅が縮小した。「厳しい状況の中で、上向きの傾向が見えてきた」(衣服・日用品卸)と、明るい見方が出ているものの、「厳しい業況の中、二極化が進んでいる」(家具・建具等卸)、「商品単価も下がり、売上高は対前年比激減」(繊維品卸)、「住宅建築低迷で関連資材卸で1~2割減。衣料品・食料品卸でも依然先行き不透明」(各種商品卸)と、引き続き厳しい業況と先行き不透明感を訴える声が多い。また、「猛暑でドリンク部門は良かったが、食品部門は牛肉関係で減少」(農畜産水産物卸)、「夏場の最盛期にあるが、天候不順もあって依然需要は低迷」(食料・飲料卸)など、天候や大手食品メーカーによる牛肉偽装問題の影響を指摘する声も聞かれる。</p>                                       |
| 小 売  | <p>業況・売上・採算D1とも2カ月振りにマイナス幅が縮小。猛暑により、「夏物衣料やビール、エアコン、水着等が好調」(百貨店、その他各種商品小売)と、売上へ好影響との声が多いものの、「暑さが厳しく日中の来店者が少ない」(商店街)との声もあり、北日本からは「長雨、冷夏で売上減少」(百貨店、商店街)と、天候不順の悪影響を訴える声が多く寄せられている。また、「季節商材の動きは好調だったが、全体的には単価下落、採算悪化」(百貨店)、「依然、衣料品を中心に価格競争により収益面が悪化」(百貨店)、「全業種売上低迷、客数、客単価ともに減少傾向」(商店街)、「イベントを行っても人出はあるが売上につながらない」(商店街)等、消費動向をめぐる厳しい状況と、先行き不透明感を訴える声が多く寄せられている。また、「食に対する不信感が広がっている」(百貨店)と、牛肉偽装問題の悪影響を指摘する声も寄せられている。</p> |
| サービス | <p>業況D1は、2カ月連続でマイナス幅が縮小。売上・採算D1も、ともに2カ月振りにマイナス幅縮小。「景気浮揚について中央からの波及効果が出てきた」(旅館)、との声があるものの、「夏休み中の客数増加に期待したものの、思うように売上伸びず」(食堂・レストラン)、「依然として低迷している」(旅館)等、引き続き消費の低迷を指摘する声が多い。また、猛暑により「冷たい麺類が好調」(そば・うどん店)、「パーマ客よりカット客が増え、売上伸びず」(美容)と好悪両面の影響を指摘する声が多く寄せられた。牛肉偽装問題の影響により、「外食産業にも影響が出ている」(喫茶店)との声も聞かれた。また、「秋以降の予約の動きが鈍い」(旅館)や「好転する材料なし」(建物サービス)等、先行き不透明感を訴える声が多く寄せられている。</p>   |

(参考)

【ブロック別概況】

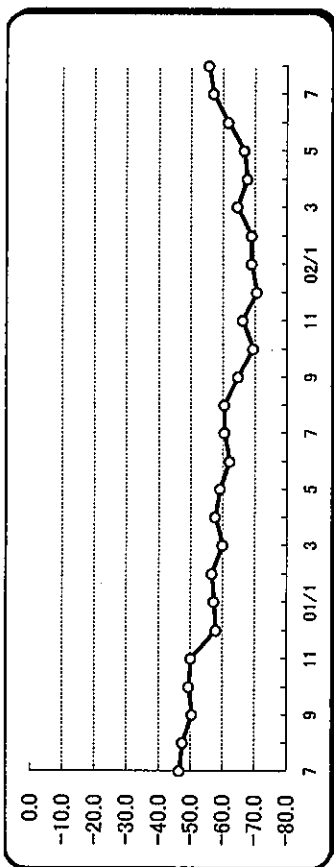
- ブロック別の業況DI（前年同月比ベース）をみると、全産業合計では全ブロックとも引き続きマイナス水準で推移し、特に、北海道、近畿では前月水準に比べてマイナス幅が拡大した。
- ブロック別の向こう3カ月（9月～11月）の業況の先行き見通しは、全ブロック合計では、引き続きマイナス水準。しかしながら、全ブロックで昨年同時期の先行き見通しと比べ、マイナス幅が縮小しており、明るい見方をしている。

ブロック別・全産業業況DI（前年同月比）の推移

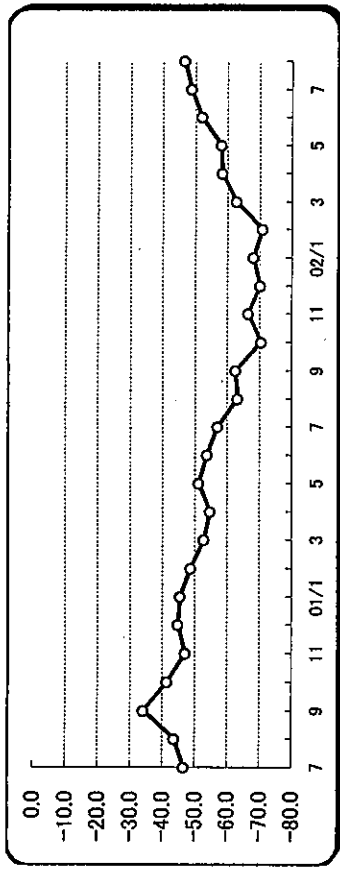
|      | 14年<br>3月 | 4月     | 5月     | 6月     | 7月     | 8月     | 先行き見通し<br>9～11月    |
|------|-----------|--------|--------|--------|--------|--------|--------------------|
| 全 国  | ▲ 54.4    | ▲ 49.7 | ▲ 50.4 | ▲ 48.1 | ▲ 48.9 | ▲ 46.4 | ▲ 36.6<br>(▲ 47.1) |
| 北海道  | ▲ 34.6    | ▲ 41.8 | ▲ 43.3 | ▲ 40.8 | ▲ 43.3 | ▲ 45.4 | ▲ 37.2<br>(▲ 46.5) |
| 東 北  | ▲ 65.7    | ▲ 59.2 | ▲ 55.3 | ▲ 51.8 | ▲ 55.3 | ▲ 50.3 | ▲ 43.3<br>(▲ 54.9) |
| 北陸信越 | ▲ 54.9    | ▲ 50.0 | ▲ 52.8 | ▲ 46.0 | ▲ 40.1 | ▲ 38.5 | ▲ 34.6<br>(▲ 46.1) |
| 関 東  | ▲ 48.8    | ▲ 44.5 | ▲ 44.9 | ▲ 50.1 | ▲ 43.5 | ▲ 42.6 | ▲ 31.6<br>(▲ 43.5) |
| 東 海  | ▲ 62.6    | ▲ 48.9 | ▲ 43.7 | ▲ 43.1 | ▲ 52.8 | ▲ 43.2 | ▲ 38.3<br>(▲ 50.0) |
| 近 畿  | ▲ 66.7    | ▲ 54.9 | ▲ 61.9 | ▲ 53.0 | ▲ 52.9 | ▲ 55.1 | ▲ 42.2<br>(▲ 52.4) |
| 中 国  | ▲ 52.7    | ▲ 58.1 | ▲ 57.0 | ▲ 51.4 | ▲ 55.2 | ▲ 44.4 | ▲ 37.0<br>(▲ 45.2) |
| 四 国  | ▲ 61.1    | ▲ 53.9 | ▲ 57.3 | ▲ 52.6 | ▲ 58.7 | ▲ 56.3 | ▲ 40.5<br>(▲ 47.7) |
| 九 州  | ▲ 44.2    | ▲ 42.7 | ▲ 42.6 | ▲ 40.0 | ▲ 48.9 | ▲ 46.2 | ▲ 32.2<br>(▲ 41.0) |

# 業況DI (前年同月比) の推移 (全国)

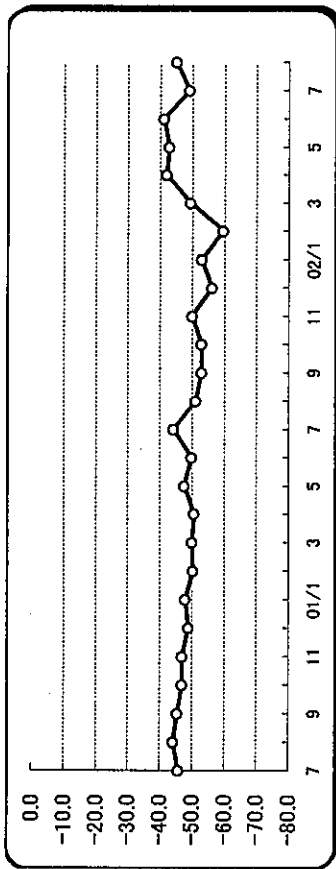
## 建設業



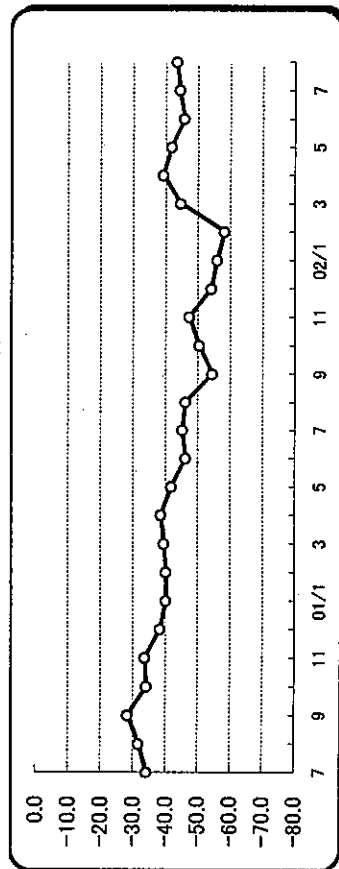
## 卸売業



## 小売業



## サービス業



## 製造業

